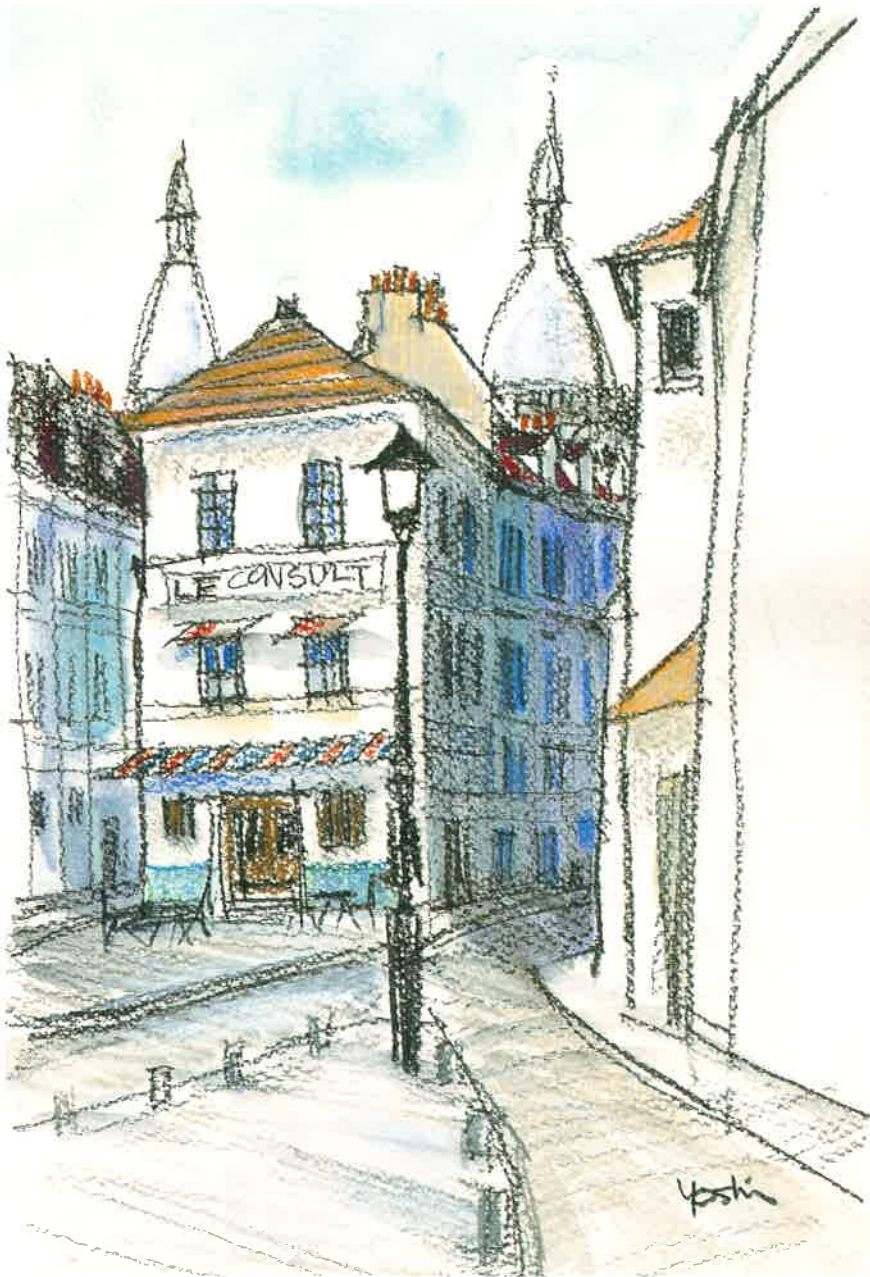


高知日仏協会 会報



15 2000.10

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE KOCHI



フランスの魅力がぎゅぎゅつまった納得の旅

Mont-St-Michel

日次	地名	時刻	スケジュール
1	伊丹空港 成田空港	+	●伊丹空港より、全日空76便にて成田空港へ。 ●成田空港より、全日空直行便にてパリへ。 ●パリ到着後、バスにてモンサンミッシェルへ。 ●夜食時に割にぎりとお茶ををご用意しております。 ●セロシー・ポントワーズ泊。【田田】
2	ルーアン	昼	●ゴッホの描いたオーヴェル・シュル・ワーズの絵 ●ルーアン市内観光。画家モネが描いたノートルダム聖堂、クロ・オルロー・ジュ通りにある大時計。昔ながらの街並みの写真などお楽しみいただけます。 ●朝晩、写真の少年ジャンヌ・ダルクゆかりの街でモネの絵を鑑賞するルーアン。【田田】
3	エトワール オンフルール	夜	●ルーアン市内観光。画家モネが描いたノートルダム聖堂、クロ・オルロー・ジュ通りにある大時計。昔ながらの街並みの写真などお楽しみいただけます。 ●朝晩、写真の少年ジャンヌ・ダルクゆかりの街でモネの絵を鑑賞するルーアン。【田田】
4	サンマロ ツール	夜	●サンマロの歴史と建築。画家モネが描いたノートルダム聖堂、クロ・オルロー・ジュ通りにある大時計。昔ながらの街並みの写真などお楽しみいただけます。 ●朝晩、写真の少年ジャンヌ・ダルクゆかりの街でモネの絵を鑑賞するルーアン。【田田】
5	フロア城 バルビゾン	夜	●フロア城の歴史と建築。画家モネが描いたノートルダム聖堂、クロ・オルロー・ジュ通りにある大時計。昔ながらの街並みの写真などお楽しみいただけます。 ●朝晩、写真の少年ジャンヌ・ダルクゆかりの街でモネの絵を鑑賞するルーアン。【田田】
6	パリ	夜	●「印象派美術の聖地」オルセー美術館見学。専門ガイドの解説を聞きながら、ご来場後の中庭で絵画鑑賞。【田田】
7	パリ	夜	●「印象派美術の聖地」オルセー美術館見学。専門ガイドの解説を聞きながら、ご来場後の中庭で絵画鑑賞。【田田】
8	伊丹空港 成田空港	+	●伊丹空港より、全日空76便にて伊丹空港へ。【田田】

■出発日と旅行代金(お1人様) 木・土曜日出発

出発日	旅行代金
11/9・16・23・30、12/7・14・21 1/11・18・25、2/1・8	178,000円
11/4・11・18・25、12/2・9・16 1/4・6・13・20・27、2/3・15・22、3/1・8・15	188,000円
11/2、2/10・17・24、3/3・10・22・29	198,000円
3/17・24・31	208,000円
12/23	218,000円
12/28	248,000円
12/30	278,000円

●添乗員同行(大阪から大阪まで同行します)
●食事:朝6回・昼4回・夕食5回(税別除く)朝食はコンチネンタル
●最少催行人員:15名 ●利用航空会社:全日空
●利用ホテルグレード:B ●東京・福岡・名古屋発着:同一代金
●札幌発着:10,000円別途必要

心の目で旅したい貴方へ贈る
フランス
魅惑のエッセンス 8日間

北フランスには、芸術家達に愛された風景が数多くあります。そういつた、芸術家達に愛された街々を巡るのもフランスの旅のエッセンスのひとつ。このツアーでは、ゴッホの描いた「オーヴェル・シュル・ワーズ」や、モネゆかりのルーアン、印象派の画家たちが愛した街、バルビゾン、画家の村バルビゾンなどを巡り、芸術の世界に浸ります。そして、旅の最後に印象派美術館の案内で、ルーアン市内観光。画家モネが描いたノートルダム聖堂、クロ・オルロー・ジュ通りにある大時計。昔ながらの街並みの写真などお楽しみいただけます。朝晩、写真の少年ジャンヌ・ダルクゆかりの街でモネの絵を鑑賞するルーアン。【田田】



そして、旅の最後に
ゴッホの「オーヴェルの教会」、ミレーの「落穂拾い」「晩鐘」など
旅の途中で見た街・風景が描かれた名画をパリの「印象派美術の宝庫」
オルセー美術館で
じっくり鑑賞!
専門ガイドが詳しくご説明します
オルセー美術館

〈旅行主催〉
運輸大臣登録旅行業第55号 株式会社 日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
名鉄観光 サービス株式会社 高知支店
〒780-0822 高知市はりまや町1丁目1-9
TEL088・873・5888 FAX088・825・3661
一般旅行業務取扱主任者: 蜂須賀 稔



▲来高のオゼンヌ高校の生徒たち

オゼンヌ高校を訪ねて

高知新聞社会部 石川 浩之

朝早く、生徒たちの登校風景を撮影するため、オゼンヌ高校へ出掛けました。南部の都市ツールーズ市は「学生の街」。郊外を含め74万人の人口のうち、学生は11万人にも達するという。薄暗い早朝の街には若者があふれ、煉瓦づくりの古い街並みに活気を与えていた。

校門の前で高校生たちにカメラを向ける。笑顔で手を振る無邪気さは、日本の高校生と変わらない。が、くわえ煙草でやってくる女子生徒には違和感を覚えた。フランス通ならご存じだろうが、高校から喫煙は認められている。しかしそれ以上に驚いたのは、朝もはやから、熱い抱擁を繰り返す生徒たちの姿。一組が二組、二組が三組と「増殖」し、あちこちで熱いキスが交わされているのだった。

結構、濃厚。雨上がりのアスファルトも乾かず抱擁に思わず見入る。いずれも男の子の方はオゼンヌ高校の生徒ではないらしく、チャイムが鳴ると、この世の別れでもあるまいに、涙にむせぶカップルもいた。二人に何があったのか。フランス語が話せぬ私には取材不可能である。

いやいや、こんなことを取材しに来たのではない。今回の取材は高知南高にやってくる高校生に話を聞くこと。教員や保護者、生徒らで構成され、学校運営に関して一定の決定権を持つ「学校評議会」の内実を聞こうというものだった。それは土佐の教育改革の一環として公立学校に設置された「開かれた学校づくり推進委員会」の参考にもなるはずである。

まず生徒たちの意見を発表する力が段違いに違う。保護者の教員に対する信頼感、教員が持つ権威も日本とは比較にならない。学校評議会は学校の中で極めて有効に機能している印象を受けたが、それもこれもこうした土台がしっかりしていればこそなのだろう。

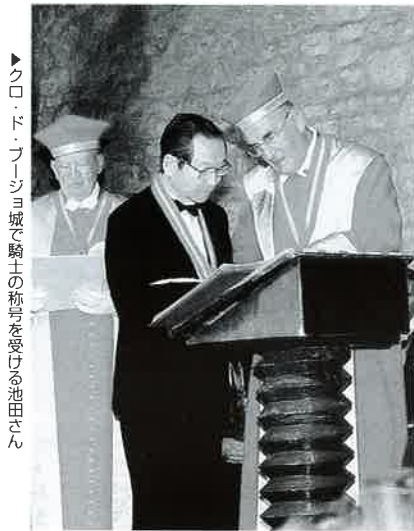
その詳細は後日、高知新聞で報告させていただこうと思う。まずは「予告編」ということでお許しいただきたい。

◀煉瓦づくりの建物が並ぶツールーズの街並み (いしかわ・ひろゆき)

学生の街ツールーズ

彼川日仏財団による「日本語を選択するフランス人高校生」の学習意欲を高めることにも、若者同士、国際・文化交流をはかる事業の一環で、協会にとっても三年越しの懸案事業。オ高の一行は来年二月二日に高知入りする。





クロ・ド・ブージュで騎士の称号を受ける池田さん

池田副会長が ワイン騎士に

高知日仏協会副会長の池田馨さんが、フランスワインの名産地ブルゴーニュ地方の親睦団体「ワインの騎士団（シュバリエ・デュ・タートヴァン）」から世界のワイン通に贈られる「ワインの騎士」の称号を受けた。

ワインを愛し、フランス文化に傾倒する人たちの中から選び、ブルゴーニュワインを世界に普及しようというもので、これまでに日本では女優や作曲家、実業家などの著名人を含め90人余りに贈られている。池田さんは、20年前から毎年のようにフランスの各地を訪れ、写真や絵画で紹介しワインにも精通、長年協会役員も務めていることから騎士団日本支部から推薦を受けた。

授与式は6月、クロ・ド・ブージュで行われ、朱色の長衣まとった高位の騎士たちが一人一人を紹介、壇上にあがる新騎士の左右の肩をブドウの木の根でたたき、銀杯を胸にかけたあと、ファンファーレで締めくくるといふ厳粛なもの。今年、称号を受けたのは20数か国からの約40人、授与式から続くパーティーは午後9時から延々午前2時までというパワー。池田さんは「称号にはなんのメリットもないが、ワインを通じて交友関係は深まった。今後も肩ひじを張らずワインを楽しみたい」と話している。

総会

副会長に星加氏 オゼンヌ高校受入れ決まる

高知日仏協会の今年度総会が7月25日、高知市廿代町の高知パレスホテルで行われ約30人が出席、「北川村〈モネの庭〉マルモッタン」の落成式に合わせて来高したマルモッタン美術館のアルノー・ドートリーヴ館長らを招いて開いた「日仏交流の集い」など99年度の事業報告と決算報告、仏高校生研修受入れ、訪仏ミッションなど2000年度の事業計画、予算案を全会一致で承認した。

事業計画のうち仏高校生の受入れはさきの「日本におけるフランス年」事業に関連していた懸案事項で、笹川日仏財団（本部・パリ）が、日本語を第2外国語として学習している高校生に、日本で直接学習する機会を与え、同時に日仏高校生による文化交流、友好を図ろうと実施しているもので、協会には一昨年以来、協力要請が届いていた。来高するのはトゥールーズ市の進学校と言われるオゼンヌ高校（LYCEE OZENNE）＝1ページ参照＝で、引率教師2人と生徒15人が来年2月2日から3週間にわたって滞在する計画。これに対し高知県内でも国際交流に積極的にあたっている高知南高校（谷脇和隆校長）が当初から受入れに理解、すでに担当教諭も決め、滞在中のプログラムの検討を始めている。ただ、同校ではフランス語圏内の高校生の受入れは初めてで、今後、ホスト・ファミリーの確保について各方面への協力を求めている。

予算面では、今年度から繰越金の一部を将来の20周年、25周年記念事業に備えて「記念事業基金」として積み立てることにした。また、今年度は役員改選期にあたったが、全役員を再選、新たに推薦のあった理事の星加敏文氏を副会長に、元NTT高知支店長の伊野部元彦氏を新理事に選んだ。この結果、副会長は5人体制となった。



国際交流員に
仏からベスさん

県国際交流協会のサム・ルーさんら4人のフランス人国際交流員が任期満了で、今年7月までにそれぞれ帰国、県は新たなJETプログラム（外国青年招致事業）国際交流員として、ネリー・ベス（Nelly Besse）さん（22）＝写真＝を招いた。

ベスさんは、パリ第10大学を卒業、現在同大学院在学中で英語とスペイン語を専攻。日本語は高校と国立東洋言語文化研究

所日本語科で学んでおり、来日経験も今回が5回目。これまでに東京のフランス商工会議所勤務のほか、琵琶湖、神戸のホテルなどでアルバイトをしており、日本語の日常会話にはほとんど不自由はない。当面、来年7月まで県立美術館に勤務、資料の翻訳や海外からの訪問者の対応などにあたることになっている。

ベスさんはトゥール出身で、協会とゆかりの深いレモン洋子さんとも知り合い。またルー氏ともメール交換仲間という。「仕事はとても楽しい。職場の人たちと北川村のモネの庭にも行きました。協会の人たちともぜひ交流を深めたい」と話している。

高知日仏協会の活動を振り返って（講演要旨）

高知日仏協会は1983年に設立され、今年で18年目を迎えておりますが、当時の設立趣意書を紹介しますと、おおよ次のように書かれています。

「文明開化、自由民権運動を通じて多くの土佐人がフランスに学び、日本の近代化に大きく貢献したことはよく知られています。高知ではパリ郊外のライレ・ローズ小学校と一ツ橋小学校で姉妹提携を結び、交流が重ねられてきました。県内ではすでに数多くの方々、産業・文化・学術のあらゆる分野でフランスとの結びつきを求め深めようとされています。折しも高知大学仏文研究室は今春第1回の卒業生を送り出し、今後の発展が期待されております。こうした機運をうけて、わたくしたちは高知日仏協会の設立を企図しフランス文化を媒介に県内外から多くの方々を参集され、他分野との交流と相互刺激を通じて高知文化の活性化がはかられることを念じてやみません」

国際交流は人の交流から 会長 佐竹 茂市

今後につきましては、できたら小さく

発起人は故西沢弘順先生、現在も役員の山崎拓さん、安藤禎彦さん、星加敏文さん、岡内啓明さん、細川明夫さんで、会員は百人余でした。

続いて本会再発足にあたって私が挨拶しました趣意書を読み上げます。

「2年足らずで会長のご逝去と事務局長の転勤等が重なり、その後は公式な事業はほとんど行っていません。今回、会員名簿、会則などを捜してもらいましたが、事務局の引き継ぎもなく、まったく判明しない状態です。しかし、その中で山崎拓さんや細川さんなどが、わずかに個人的に交流活動を続けてこれ、何とか命脈を保ってきたというのが実情です。一方、かねて私が進めており、

今春（92年）開校した国際デザインカレッジがシャンパーニュ地方のランス市立美術大学と提携しました。こんな時会長と事務局を引き受けてくれないかとの話がありました。いったんはお断りしたんですが、旧役員の方々が過去のことは整理し、責任を持つということでご指名を受けた次第です。

この種の会は任意団体とはいえ国際信義にかかわる面が多く、単なる親睦団体とは性格が異なると思います。やるからには責任を持って、何よりも長続きさせなければと思っています。そのためには事務局がしっかりしなければいけないのと、役員、会員の方々のご理解と協力を得ることが不可欠であります」

以上の様な次第で、本会は、形式的には当初の会の継続、実質的には役員、会員、会則を洗い替えのうえ、再発足となったわけでありませう。

産んで大きく育てる、細く長くの方がいいんじゃないかと思っております。活動は着実に充実していると思っております。ちなみに他県との交流も行っていますが、特に四国4県では毎年定期的に交流、意見の交換を行っていますが、長くなると会の運営は難しくなることをつくづく思いました。

国際交流で最も効果的で大事なことは、人の交流ではないかと思っております。今後、会員の方々にはできるだけフランスへ行っていただくと同時に、また、フランスからも学生さんをはじめ、できるだけ大勢の皆さんに来ていただく、受入れ交流をはかること、これが長続きする国際交流ではないかと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

◎高知日仏協会新役員（敬称略）

- 会 長 佐竹 茂市（龍馬学園）
- 副 会 長 池田 馨（味處末廣）
- 〃 藤戸 謙吾（高知新聞）
- 〃 星加 敏文（高知キネ旬友の会主宰）
- 〃 山崎 拓（山崎猛商店）
- 〃 吉村 泰輔（高知パレスホテル）
- 理 事 安藤 禎彦（中納言）
- 〃 井津 哲彦（安芸市長）
- 〃 伊野部元彦（元NTT）
- 〃 上田 訓正（高知新阪急ホテル）
- 〃 大上 力（高銀地域経済振興財団）
- 〃 岡内 紀雄（高知銀行）
- 〃 岡内 啓明（丸三）
- 〃 小澤 幹雄（NHK高知放送局）

- 理 事 鬼田 綾子（鬼田酒店）
- 〃 笹岡 良昭（テレビ高知）
- 〃 近森けい子（医療法人近森会）
- 〃 友永 泰弘（友永歯科）
- 〃 中村 嘉子（サニーマート）
- 〃 永野貴代美（高知市文化振興事業団）
- 〃 細川 明夫（南国酒家）
- 〃 三浦 一雄（西岡寅太郎商店）
- 〃 安並志瑛男（ケンセン）
- 〃 山口 順久（高知放送）
- 〃 山本 奎一（四国銀行）
- 〃 吉村 浩二（金高堂書店）
- 〃 事務局長 上田 静雄（国際デザインカレッジ）
- 監 事 永野 雄一（入交石油）
- 〃 三谷松太郎（高知情報ビジネス専門学校）



▲ルフラン君(左)とデュース君(中央)を紹介するレモン洋子さん
▼笹川日仏財団の松上朋子さん(左)とサム・ルーさん



2000年度パリ祭には約60人が参加。今回のゲストは3年間にわたって県の国際交流員として日仏交流に尽くしたサム・ルーさんと笹川日仏財団東京事務局の松上朋子さんら6人で、パーティーに先立って佐竹茂市会長が「高知日仏協会の活動を振り返って」と題して講演。(前頁参照)

続いて新会員となった伊野部元彦さんと田邊健介さんが在仏経験を交えて自己紹介。このあと、佐竹会長が任期を終えて帰国するルーさんに記念品を添えて感謝状を贈った。また、ツール商業大学院大学のレモン洋子・ジャパンセンター所長が、同大の県内企業研修生セドリック・デュース君(高知パレスホテル)とバスティン・ルフラン君(西岡寅太郎商店)を紹介。2人は「高知が大好きになりました。また帰ってきます」と上達した日本語で、高知での思い出を話した。



高知パレスホテル



高知日仏協会懇親会



講演する佐竹会長▶
▼佐竹会長(左)から感謝状を贈られたサム・ルーさん



ワインの古里・ブルゴーニュへ夢乗せて……。さる9月の第5回訪仏ミッションに佐竹茂市長はじめ会員ら総勢24人が参加、TGVでディジョンへ、そしてシャイイの古城での宿泊。フランスの田舎を巡った皆さんに旅の思い出を寄せてもらいました。

訪仏ミッション

甲藤 圓 すっと前から楽しみにしていたブルゴーニュのワイン村を訪れる旅がやっと実現、夢と期待で関西空港を出発しました。

同行した池田馨さんのおかげでナポレオンが愛飲したと言われるシャンベルタンをはじめ、食事毎にいろんなワインを味わうことができたのは、この上ない幸せでした。ワイン作りは、ブドウ畑のちょっとした日当たり加減や風などが味に微妙に影響すると聞いていましたが、その生産者の所有する畑はとても狭く、小さな道一つ隔てて、ワインの味が違うということにも驚かされました。1キロのカーブに置かれた、かびと埃が積もった古いボトルに時代のロマンを想像し、多くの人々を虜にしてきたかも知れない500万本のワインに高い評価を感じました。また、貧しい人々を救済するために作られ、ワインの収益で運営されていたというホスピス・ド・ボーヌにも感動しました。

時間がなくてロマネコンチネに立ち寄りなかつた残念さは、次回の期待に繋げてブルゴーニュを後にしました。

佐竹 茂市 今回の旅行では、ユーロ安＝円高を実感した。ここ数年間、1フランは20円前後が続く、今年の正月頃も17～8円であった。それが今回、一挙に15円になっており、物価の安さを肌で感じる事ができた。ルイヴィトンの本店に日本人が連日、2時間も待って買い物をしていたと聞いたが、むべなるかなである。ユーロ安の原因は、米ドルが強すぎることにありとされているが、長期不況下の円が強いというのは、必ずしも合点がいかない。

佐竹由己子 「天災は忘れた頃にやってくる」と言うが、海外旅行では「天災は忘れないうちにやってくる」と痛感。荷物の紛失がまたしても起きてしまった。4度目である。

ブルゴーニュの碧空の下「世界遺産」を巡る楽しかるべき旅行も、荷物の届かない方々の事を慮れば、正直言って心から楽しむことができなかった。「海外旅行では何が起ころても不思議はない」という言葉を思い出しつつ旅を続けた。間もなく11月。「黄金の3日間」と呼ばれるワイン祭りに、世界中から多くのワイン業者や観光客が詰めかけて、ブルゴーニュの「ワイン街道」は賑わうことだろう。

滝石 園子 フランス＝世界の女性の憧れの華やかなパリ、シャンゼリゼ通り、ファッションの発祥地、そんな私の思い込みは完全に違った。広大な肥沃な土地にどこまでも続くブドウ畑、のんびりと牛が放牧され、羊の見かけられる周辺の家屋は、日本ならとくに解体され近代的な建物になっているだろうに外壁は改修され、それがまた心やすまるのは何故だろう。そしてその周辺レストランはもちろん色鮮やかな花で飾られている。この自然そのものを残した風景、この豊かさはどこから来ているのか。14世紀のロマネスクの精華と言われる柱頭の彫刻など先人達の巡礼には及びもつかぬが教会の中での敬虔な祈りに出会う時、多くのことを考えさせられる旅であった。シャイイ城のホテルの庭で、夜空に輝く澄みきった手の届きそうな星、私の生き方も少しは変えられそう！。

中山 節子 旅の疲れも薄れた今、日増しに思い出される光景。ブルゴーニュ地方の豊



▲古都オータンを望む。ここはパリに移る前の首都だ



▲ディジョンでの一行

かな自然、眩いばかりの緑、あふれる陽光、素晴らしい彫刻・絵画・建造物、ゴシック様式、ロマネスク様式の聖堂、毎日楽しみだった美味しい料理にワイン、古城ホテルでの優雅な気分……少しハードな旅ではありましたが、こころ豊かで贅沢な旅でした。

三上美智子 古い村の家々、教会、公園、人々そして暗くて長かったワインカーブ等々、その一つ一つに、歴史、物語、文化があり、美しい一言に尽きました。今回の旅は、周囲の方々の資料の提供や試写会などでの事前の知識がありましたので、実物に出会った時の感激はより一層深いものになり、大変勉強になりました。再び美しい国で、美し

駐日フランス大使館
ホームページ

www.ambafrance.or.jp

～ラベル・フランス日本語版閲覧からイベント案内も～

県産材の茶室パリへ

魚梁瀬杉の茶室をパリに……。[こうち木の文化交流実行委員会]（西岡建雄委員長）が、土佐の素材と匠（たくみ）の技を世界にアピールするため、11月にパリの日本人の邸宅内に建てることになった。

今年2月、関西経済交流会の懇親会で建築関係者から「少林寺拳法ヨーロッパ総局長が、来春開く世界大会の要人接客用に茶室を建てる構想がある」という話を聞いたのがきっかけ。「それなら県産材を利用してもらったら」と提案、一気に具体化し、県森林局が補助金の拠出を決め、馬路村が原木を提供した。

建築様式は武家風で、茶道数内流家元の監修を受けた本格的なもの。設計士や職人はすべてボランティアで参加、茶室模型＝写真＝



は国際デザインカレッジ・インテリアデザイン科の2年生が担当した。資材は船便でパリへ運び、高知から派遣する職人が現地を組み立てる。

日本の茶室は、展示用として現地の博物館にもあるが今回の茶室は多くの人々が直接茶を楽しむようにするもので、日本建築の神髄だけに外国の人の注目を集めるものと期待されている。

秋鯖のエスカベッシュ、マスタード風味

脂の乗った今が旬の鯖をエスカベッシュに仕立てました。
エスカベッシュとは魚を素揚げにしたものに酢と野菜の漬け汁をかけたもので、言わば洋風南蛮漬けと言ったところでしょうか。

〈材料〉4人前

鯖（清水鯖、平鯖どちらでも良い）1本 3枚卸し	
マリナード	
a. 玉ねぎ.....1個	b. 白ワイン酢.....40~50cc
人参.....0.5本	ピーナッツ油.....50cc
セロリ.....0.3本	フレンチマスタード（練り）.....大さじ1
ニンニク.....0.5片	フレンチマスタード（粒）.....大さじ0.5
	サラダ油.....100cc
	塩.....小さじ0.2
	コショウ.....適宜

サラダ野菜
サニーレタス、レタス、サラダ菜など

パセリのみじん切り

〈作り方〉

- 鯖は中骨を抜き片身を半分にして1本で4つとります。皮に切り込みを入れます。塩を少しきつめに20~30分置いておきます。
- 玉ねぎ、人参、セロリ、ニンニクをそれぞれ薄切りにします。
- bの材料を全て一緒にし良く混ぜ合わせます。
- ②の野菜をサラダ油でしんなりするまで炒めます。（弱火で）
- ④の炒めた野菜を③のドレッシングに入れ混ぜ合わせます。
- ①の鯖にコショウし、小麦粉をまぶして油でカリッとするとまで揚げます。
- 皿にサラダ野菜を盛りその上に⑥の鯖

をのせ、⑥のマリナードを掛けて、仕上げにパセリのみじん切りを振ります。

〈ポイント/アドバイス〉

- 鯖に塩をしてしばらく置くと水分が出てくるのでそれらを取ります。
- 炒める野菜は色を着けない様になります。
- サラダ野菜を盛る前に軽く塩コショウを振り混ぜ合わせます。
- 白ワイン酢にシェリー酒酢を加えますと風味が増します。
- 鯖の代用で秋刀魚でもいけます。
- 食べる前にスダチやカボス等の柑橘系を掛けますとより一層、美味しく頂けます。



田中秀典シェフの横顔

高知市出身。高知西高→大阪・あべの辻調理師専門学校卒。大阪・心斎橋フランス料理「ピストロ・ヴァンサンク」、三翠園ホテルを経て高知パレスホテル入社、現在同ホテル、フランス料理「ラ・フランス」料理長。ソムリエ呼称資格。

事務局近着資料

「label」 フランス外務省
「MONNARA」 8.9.10月号
「広島日仏協会報」 No.149
「ぶらむなあと」 (徳島日仏協会)
「OVNIオプニー」 No.455~465

新旧会員(敬称略)

〈新入会員〉
前田 順子
岡崎 誠
水田 和子

事務局だより

7月~8月は年会費（個人5千円、法人1万円）納入期となっております。会員の皆さんには、先に会費振り込み用紙をお送りしておりますが、未納の方は指定の郵便局か四国銀行、高知銀行のいずれかにお振り込みくださいようお願い申し上げます。



書店の店先に日記帳がずらり、新しい年、21世紀の足音が聞こえています。協会にとって初のビッグイベント、オゼンヌ高校の一行の2月来高が決まりました。高知南高の生徒との交流がメインで、もっかプログラムづくりを進めています。日仏若い世代の未来にどうアシストができるのか、お知恵をお貸しください。(U)

表紙絵:「巴里・モンマルトル界限」高知放送顧問 笹岡義彦さん

高知日仏協会会報 第15号

平成12年10月25日発行

発行者 〒780-0935 高知市旭町2-22 国際デザインカレッジ内
高知日仏協会 会長 佐竹 茂市
TEL.088-875-0099 FAX.088-875-3299
印刷所 高知市葛島1丁目10-70 高知印刷株式会社

私たち「四国銀行」は、
皆様に親しまれ、
信頼される銀行を
目指して、
地域社会の発展に
努めてまいります。



島崎和歌子

ぐんぐんバンク

四国銀行

HOTEL new HANKYU KOCHI



1,200名様をお招きできる大宴会場「花の間」をはじめ
集い華やかな宴会場15室。

豪快な土佐の味、皿鉢料理や神戸ビーフの鉄板焼
洗練されたフランス料理、悠々の歴史に育まれた中国料理など
美味あふれるグルメフロア。

くつろぎのときを過ごすバラエティあふれる242の客室
室内プール、アスレチックジム、サウナ…ヘルシーなフロアもごございます。

阪急東宝グループ

高知新阪急ホテル

(088) 873-1111

いつも新鮮な出会い 新阪急ホテルグループ

大阪新阪急ホテル (06) 6372-5101 新阪急ホテルアネックス (06) 6372-5101
京都新阪急ホテル (075) 343-5300 東京新阪急ホテル築地 (03) 5550-5700
神戸三田新阪急ホテル (0795) 64-1101